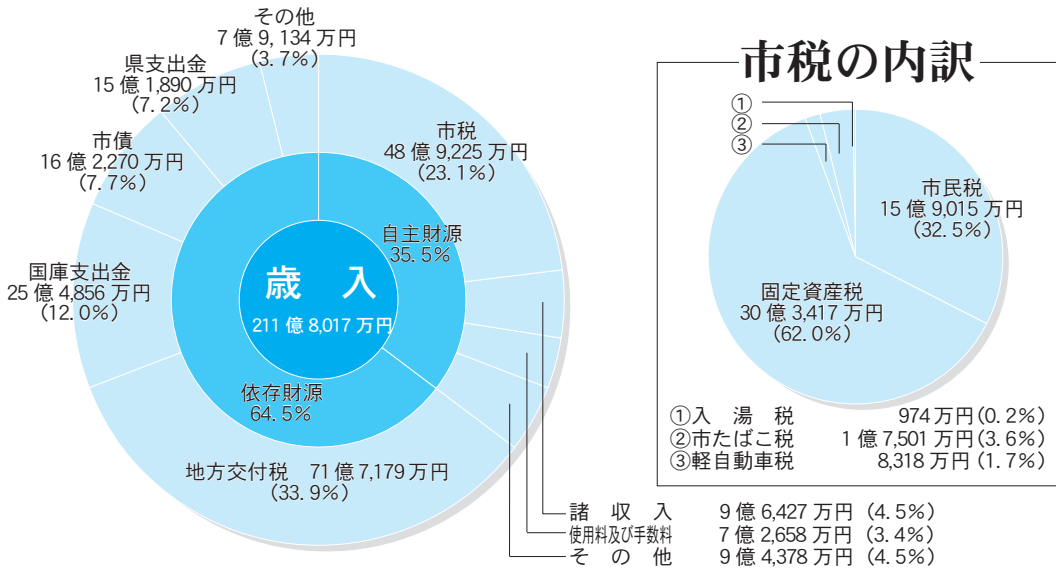


朝来市の家計簿

歳入 211億8,017万円



一般会計
市の会計は、一般会計と12の特別会計、企業会計(水道事業・工業用水道事業)で構成されています。
一般会計は高齢者や子どもの福祉、小・中学校や生涯学習の振興、道路の整備、ごみ処理など市の主な仕事に使われる会計で、市の行政サービスの大部分をまかっています。
平成21年度の一般会計決算額は歳入(収入)が211億8,017万円、歳出(支出)が203億2,817万円で差引き8億5,200万円の黒字決算となりました。このうち翌年度に繰越して行う事業の財源1億6,605万円を差引いた6億8,595万円が実質的な黒字となります。

市民の皆さんから納めていただいた税金や国・県からの補助金がこの1年間どのように入り、どのように使われたのか。
今月の広報では、平成21年度の決算を一般会計を中心にお知らせします。

歳入

歳入(市に入る1年間のお金)のうち市独自で調達できる市税、使用料・手数料などの自主財源は全体の35.5%、地方交付税、国や県からの補助金、市の借金である市債の発行などの依存財源は64.5%を占めました。
自主財源のうち最も多いのは、市民の皆さんから納めていただいた市税で48億9,225万円(全体の23.1%)。次に多いのが、諸収入で9億6,427万円(4.5%)、次いで使用料及び手数料で7億2,658万円(3.4%)となっています。
一方、依存財源で最も多いのは、市が一定の水準の行政サービスを行えるように、国から交付される地方交付税71億7,179万円(33.9%)。次に多いのは、国庫支出金で25億4,856万円(12.0%)となっています。

歳出

歳出(市が1年間に使うお金)を目的別にみると、市役所やケーブルテレビの運営の経費となる総務費で40億5,950万円(20%)と最も多く、次に市債(借金)の返済にあてた公債費が37億8,402万円(18.6%)、次いで高齢者や子ども、障害者の福祉の充実にあてた民生費が36億1,130万円(17.8%)となっています。
性質別にみると、公債費(借金の返済)が37億8,379万円(18.6%)と最も多く、次いで人件費37億6,788万円(18.5%)、物件費30億6,711万円(15.1%)の順になっています。人件費のほか物件費や補助費等、扶助費などを合わせた消費的経費は109億7,497万円(54%)、道路や学校などの社会資本の整備にあてられた投資的経費は30億6,115万円(15.1%)

市民1人あたり

使ったお金 597,588円
納めていただいた市税 142,345円

※平成22年3月末現在の人口 34,017人